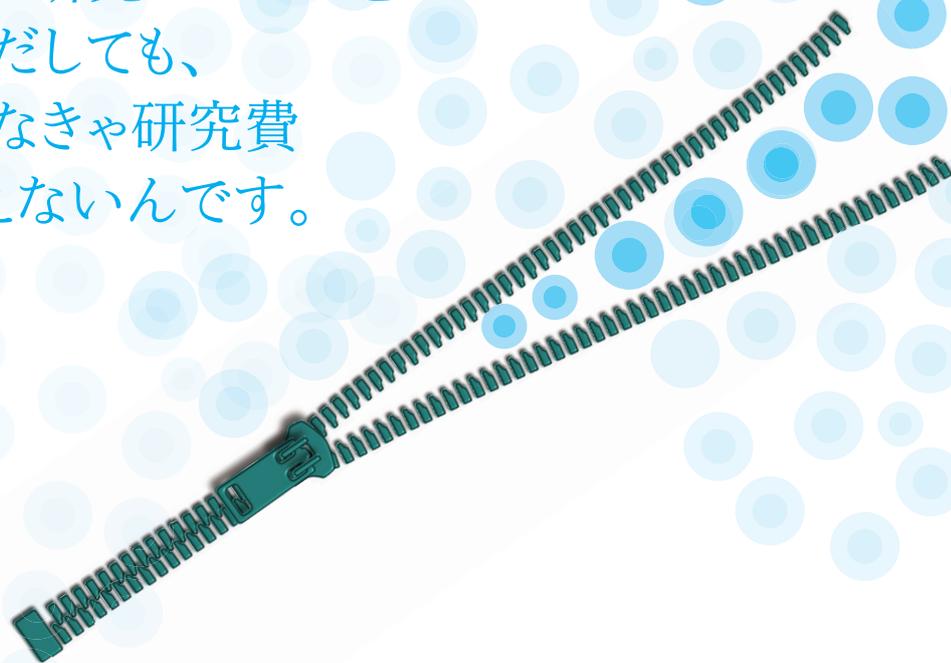


新しい研究アイデアを
生みだしても、
見せなきゃ研究費
もらえないんです。



すべての分野の研究者、PD、RA、院生、URA、図書館職員、研究支援業務を担当する大学職員を対象とした

研究者のためのオープンデータセミナー

プログラム	
司会 学長室 URA 館正一	
あいさつ 関西大学 副学長（研究推進担当） 研究推進部長 吉田宗弘	
セッション① 「研究オープンデータにおける大学と研究者の役割」	
13:00	国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 武田英明
セッション② 「それぞれの研究費とオープンデータの条件」	
14:30	関西大学 学長室 URA 矢野周治
セッション③ 「URAが研究者をサポートします—URAって何？」	
14:50	関西大学 学長室シニア URA 古宮行淳

総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻、2011年東京大学工学系研究科修士。工学博士。ルウエー工科大学、奈良先端科学技術大学院大学を経て、2006年より現職。2005、2008年東京大学客員教授、2006、2010年国立情報学研究所学術コンテンツサービス研究開発センター長。専門はWeb情報学、人工知能、設計学。ジャパンリサーチセンター(JALC)共同運営委員会委員長、ORCID (Open Researcher and Contributor ID) 理事、NPO法人リンクドオープンデータ・イニシアティブ理事長も務める。



国立情報学研究所
情報学プリンシプル研究系
武田英明
教授

オープンデータとは？

公的資金の申請に
必要です。

公的資金の申請の際に、研究の実施におけるオープンデータの取組み方針を定めたデータマネジメントシートの提出が要求されるようになってきています。あらかじめ研究により生み出されるデータについてオープン、クローズの扱いを決めておき、オープン化したデータの活用によるさらなる研究の展開を示すことが、申請のポイントになるかもしれません。

研究オープンデータにおける大学と研究者の役割

研究データの公開により、ジャンルを越えた新しい研究の創出や、共同研究の促進、研究の効率化が期待されます。しかし、公的研究費の獲得の条件にオープンデータへの対応がうたわれ始めており、今後は科研費にも求められると予想されます。今回、国立情報学研究所の武田英明先生をお迎えし、なぜ今オープンデータが注目されているのか、社会にどのような変革をもたらすのか、オープンデータの基本的な考え方についてご講演いただきます。研究者として、大学としてどのように対応すべきかを学ぶ機会にしたいと思います。

申し込みフォーム



要申し込み
セミナー参加にはお申し込みが必要です。

2018

7.18

wed

参加費無料

13:00
|
15:00
(受付 12:30~)

関西大学 尚文館 1階マルチメディアAV大教室

同時中継	以下のキャンパスで同時中継いたします。	高槻キャンパス 第2会議室	高槻ミュージックキャンパス マルチミーティングルーム3	堺キャンパス 会議室B
------	---------------------	------------------	--------------------------------	----------------